

近では「こんにちは」と頑張って言えるようになって来ている。

ボウリング教室という交流の中で少しずつ成長しているようで、なんとか上手く社会に溶け込んでくれたらと欲も出てくる。

何よりも本人達が楽しくゲームを満喫でき、自然に交流ができるこのようなボウリング教室が継続されることを切に願うと共に、次回開催案内が早く来ることを、親子で心待ちにしています。

大好きなボウリング教室

都島区支部 宮宇地 すみ子

勝也がくれよんのボウリング教室に参加するようになってから、一年半位になります。初めて参加した時には、表情も硬かったのですが、最近は笑顔に溢れ楽しくて仕方がない様子です。解散して家へ帰る道中も「楽しかったあー」を10回くらい繰り返しています。勝也は一年ほど前からひきこもりになってしまい、家から外へ出ることも本人にとっては大変なことのようにです。そんな勝也ですが、このボウリング教室だけは一度も欠席したことがありません。最近は上達して時々ストライクも出します。それがまた嬉しくらしく得意になっています。勝也の大好きなボウリング教室です。

会員向け学習会に参加して

都島区支部 高橋 健次郎

港育成園管理者代理の長谷弥朋さんの説明で「家族支援プロジェクト」の学習会が行われました。最初に「学習プログラムその1～家族にも支援が必要です～」が始まりました。

既に6つのテーブルに分かれて参加者が座っており、まずグループごとに他己紹介をすることになりました。2人ずつ自己紹介をし、その後に相手の人とグループのメンバーに紹介しました。

私のグループは20代の子を持つグループで、男性は私一人でした。この他己紹介の中で印象的だったのが、絵が好きで、外国で個展を開く段取りをしているという方がおり、グループで拍手が起きました。でも、その方のお父さんは、絵を趣味的にしか捉えていないとも言われ、父親の存在に母親は期待し、子どもの捉え方も違うなあという声も聞かれました。

次に「学習プログラムその2～自分の気持ちをみることは大事です～」のワークショップがありました。

内容としては、ワークシート1に自分の気持ちを表す言葉を記入するといったもので、私の場合は「不安」など15個出てきました。次にワークシート2に、出てきた言葉を縦軸に「よい気分」－「悪い気分」、横軸に「嫌い」－「好き」と書かれた次のシートのゾーンに書き込み、同じ言葉でも人により感じ方が違うことを確かめました。次にチェックシート1で日常生活での子どもとの関わりかたについて14項目の質問に対して選択肢を選んでいくのですが、最後の質問「14. 将来の子ども暮らしについてどう考えていますか?」で迷いました。この次はチェックシート2で気持ちの面で子どもとの関わり方を解説してもらいながら整理していきました。最後に「あなたのプランづくりシート」に書き込みました。

学習会ではグループで話し合う時間が少なかつたように感じましたが、私を感じたのは、子離れ、親離れの時期はいつか来る。決断する時期を逸しないように!と思いました。上手に言い表せないのが、全日本手をつなぐ育成会の60周年記念誌の『夢』の中にある対談集に記載されている内容が的を得ていると思いますので、以下抜粋してご紹介させていただきます。

【座談会「困っているひとの手のつなぎかた」】

大野更紗・福岡寿・久保厚子・又村あおい(司会)

「見えにくい障がい」

大野：…自分が当事者になって、ほかの障害の人たちの話を聞きに行くようになりましたが、今一番感じていることは、同じ「障害」でも知的と精神と身体では、お隣のことは全然わからないということです。私は身体障害の肢体不自由で手帳が出ていて、相対的に自分のニーズを考え意思を表明できるわけですが、知的のご本人の場合それ自体が難しかったりする。

一方で、親御さんたちの圧倒的な悩みや苦しみはどこの地域でも、いつの時代でも変わらなくて、察して余りあるものがあることもわかりました。…(略)

又村：『困っているひと』(注：大野更紗 著 ポプラ文庫)を読んで感じたのは、周りの方に理解してもらうことの難しさや、困っていることが「見えにくい」という困難さです。…(略)

久保：地域に関係なくですが、やはり親は、まずわが子のためにがんばろうと思うんです。でも、みんながよくならないとわが子のこともよくならない。知的障害も、精神障害も、ほかの障害も、みんなが底上げで制度としてちゃんと整備されないと安心して死ねないという思いが、これまでの親の会の活動のベースにあります。